

## オーディオ実験室収載

### ZANDEN Model 120 の展開(97)

#### —モノーラルレコード—

##### 1. 始めに

これまでモノーラルレコードのイコライザーカーブや位相については、盤 자체をそれほど保有しておらず、またモノーラルレコード再生のシステムになっていないことから、触れないできました。最近オーディオ誌でモノーラルの特集が組まれたり、ネット上でも関心が高まってきています。

これを受け、ChatGPTなどでモノーラルレコードのイコライザーカーブや位相について調べたところ、ステレオレコードと同様にイコライザーカーブや位相の問題があることが分かりました。このため現行のステレオシステムでの再生には限界があることを承知の上、モノーラルレコードのイコライザーカーブや位相を調べてみることにしました。

##### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

音源は下記を使用します。

音源 1

レーベル PRESTIGE 7079

盤名 SAXOPHON COLOSSUS

演奏 Sonny Rollins Quartet

曲 St.Thomas

音源 2

レーベル Victor LS-2099

演奏 ワンダ・ランドウフスカ (チェンバロ)

曲 バッハ Goldberg 変奏曲

再生機器は下記を使用します。

カートリッジ : My Sonic Signature Gold

プレイヤー : LINN LP-12

アーム : GLANZ MH-9Bt

フォノイコライザー : ZANDEN Model 120

フォノイコライザーZANDEN Model 120 の設定条件

音源 1 の場合

イコライザーカーブ : Columbia(ステレオのカーブを参考に聴感で選択)

位相 : 正相／逆相切り替え

第4時定数: Low

音源2の場合

イコライザーカーブ: EMI(ステレオのカーブを参考に聴感で選択)

位相: 正相/逆相切り替え

第4時定数: Low

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

音源1については、正相の場合、サックスの焦点があまく、ベースがぼやけ気味で、ドラムスやシンバルの音が散らばりますが、逆相の場合、サックスの焦点が定まって息の吹込みが分かるようで、ベースがクリアになり、ドラムスの皮の張りやシンバルの音の滲みがなくなり、音に芯がでてきます。

なお、逆相のままで Columbia カーブから RIAA カーブにしますと、バランスがくずれ、ベースがだぶつき気味になり、ドラムスやシンバルのアタック感が後退します。

音源2については、正相の場合、購入以来長期に聴き倒してきて盤質が劣化し、収録年代も古くてナロウレンジであり、音が散漫でうるささが気になるくらいです。逆相の場合、ナロウレンジでありながら、音が凝縮して、うるささも後退します。

なお、逆相のままで EMI カーブから RIAA カーブにします、若干バランスが崩れ、低音が膨らみ、高音が緩む感じとなります。

### 4. まとめ

モノーラルレコードにも位相と反転位相(逆相)があり、今回の試聴盤はともに逆相のようでした。また、今回の試聴ではステレオレコードのイコライザーカーブを適用しましたが、モノーラルレコードにも最適なイコライザーカーブがあるものと示唆される結果となりました。

ChatGPTによれば、モノーラルレコードもステレオと同様、各種のイコライザーカーブと位相の正相、逆相があるとのことですので、モノーラルレコード再生システムで、より厳密な評価が期待されます。

以上

